

この1年

この何年かの報告書で、ラオスの経済的な発展が子どもたちに大きな影響を与えていることを書いてきました。この一年、この傾向はますます強くなり、ラオスがこれまでの長く閉ざされた「特別な国」から、開放されたアジアの「普通の国」になってきた印象を強く持ちます。しかし詳しく見ると、ヴィエンチャンのような都市部は建設ブームで活況を呈している反面、その周囲に広がる農村部での生活はほとんど変わらず、子どもたちの学びの環境は大きく変わっていません。

このような社会の変化の中、ラオスのこどもの活動をどこに集中させるのか、幾たびか話し合いを重ね、しばらくの間は子どもたちがまだ最低限の教育環境に触れることができない地域への支援を、丁寧に続けようと決しました。アフリカなどの緊急支援が必要な地域のように、食べるものがなくて生存が脅かされるという状況は今のラオスにはほとんどありません。ただ、育つ環境の中で知識を得る手段や機会がなく、自らが置かれた状況を理解することがないままに育っていく人々はまだまだ多くいます。また、自らの意思を適切に表現できないことにより不利益を被る人々もいます。そのように人権が充分には守られていない人々、子どもたちに対し、教育普及の視点で協力をおこなうことはまだまだ必要と感じています。

3月11日に起きた東日本大震災によって、私たちには決して「確かなるもの」がないことを確認させられました。この大震災に対し、ラオスの子どもたちや大人が日本の被災した人々のために

「私たちにできることはないか」と寄付を募り、グローバルな仲間として手をさしのべてくれたことは、世界の構造が以前と全く変わっていることを実感させてくれました。この弱い立場の者を思いやる共感を、今後とも大切にしてゆきたいと思っています。

今年度から始まった第5次中期計画で、私たちは「現地化」の視点を軸に、自発的な活動の担い手の育成と、出版活動でも識字活動においても「量」よりも「質」を大切に、「出張（出前）活動」を通じて、今まで以上に子どもたちの「現場」を大切にする方針が合意されています。しかし、現実の業務の中で、「現地化」、「質」を問うことがいかに大変かを実感しました。事務所スタッフも含め、「自発性」を引き出すことは生やさしいものではありません。しかし、そのことが可能となって初めて、活動の現地化、NGOの役割を果たすことができると思っています。

私たちの弱点である資金調達は、都内に織物販売スペースを開設するなど多様な努力がなされましたが、成果を出すまでには至りません。活動の質を確保するために必要な人的資源を確保しようとすれば、経費が拡大するジレンマがあります。この矛盾を解くためには、様々な方法で私たちの活動の意味を広く伝え、共感いただける存在になるしかありません。

この1年のご支援ありがとうございました。

事務局長 野口朝夫

ラオスでの主な活動

◆出版プロジェクト

子ども向けの図書がほとんどないラオスで、ラオス語図書を出版しています。

1990年より、ラオス語図書178種類 77.2万冊（図書146種類／紙芝居13種類／教科書7種類／ニュースレター／10号）を出版しました。

◆読書推進活動

ラオスで出版した図書を学校に配布し、学校図書室を開設するとともに、学校教員向けに図書の活用法についての研修をおこない、図書と読書活動の普及を進めています。

1992年より、ラオスの小中高校約9,600校のうち2,721校に図書を配付し、211校で学校図書室を開設しました。

◆子どもセンター

子どもが集い、遊び学べる場、自己表現の場としての役割を持つ子ども文化センター（CCC、ラオス政府情報文化省管轄）、子ども教育開発センター（CEC、教育省管轄）の活動を支援しています。

現在、全国11ヶ所の子ども文化センター及び関連施設の運営を支援しています。

日本での主な活動

◆ラオス語絵本プロジェクト

日本の指定絵本にラオス語の翻訳を貼付して、ラオスに送っていただく活動を実施しています。

2003年よりラオス語貼付絵本を5,560冊送付しました。

2010年度の活動実績まとめ

ラオスでの活動

I. 読書推進活動

■小学校における図書活用強化事業

- ・教員15名と5県1都の教育局教育指導官を対象に、3日間のフォローアップ研修を実施。

■読書推進運動の自立的運営の定着化事業

- ・対象地域4県で県郡教育指導官対象のフォローアップ研修を実施。
- ・研修後、対象校30校を2回巡回し、訪問指導。

■学校図書室整備事業

5県にて8校に新規図書室を開設。

ヴィエンチャン県	2校
シェンクワン県	1校
サワンナケート県	2校
ボリカムサイ県	1校
ホアバン県	2校

これまでに開設した図書室23校に対して活性化のための働きかけを実施。同時に、図書室用の文具セットと図書を各校に配布。

地域	小学校	中学高校
ルアンナムター県	1校	1校
ホアバン県	1校	1校
シェンクワン県		3校
サワンナケート県		5校
カムワン県		1校
ヴィエンチャン県		1校
ボリカムサイ県		1校
ヴィエンチャン都		8校

■ラオス指導者育成事業

- ・教員養成校3校にて、学生を対象に各2日間、模擬講義を実施。
- ・その後、再び教員養成校を訪問し、教員による講義の模様を視察。
- ・ラオス語教授法マニュアル『教本：ラオス語を楽しく教える方法～小学校教員課程向け～』を7,000部印刷し、全国の教員養成校に配布。

II. 出版プロジェクト

8種類、24,000部の図書・紙芝居を出版。

図書	6作品	14,000部
紙芝居	1作品	3,000部
マニュアル	1種類	7,000部

III. 子どもセンター

11ヶ所のセンターに32のプログラムの講師料と教材費を支援。

ヴィエンチャン都CEC	5
ヴィエンチャン都シーサタナーク郡CCC	3
ヴィエンチャン都ハクアーン34クラブ	2
ヴィエンチャン都ケオクーCEC	2
ボリカムサイ県CCC	3
ボリカムサイ県ボリカン郡CCC	2
ルアンパバン県CCC	3
サイヤブリ県CCC	3
サイヤブリ県ゲンタオ市CCC	3
サイヤブリ県ボーテン市CCC	3
サイヤブリ県パクライ市CCC	3

日本での活動

◆ラオス語絵本プロジェクト

ラオス語翻訳貼付絵本704冊をラオスに送付。

◆イベント・講師派遣

16件のイベントを主催・共催、10件のイベントに参加、勉強会を4回実施、9校に講師を派遣。

主催イベント	6件
勉強会	4回
共催イベント	10件
参加イベント	10件
講師派遣	8校

2010年度 事業対象地域図



■学校図書室新規開設：8校

□学校図書室フォローアップ：23校

◇JICA フォローアップ事業対象校：30校

●子どもセンター(CCC/CEC)：11ヶ所

I 読書推進運動

＜2010年度の計画＞

- ◆学校訪問活動を積極的に展開し、子どもや教員、親と地域を巻き込みより効果的な活動を展開する。
- ◆「小学校における図書活用強化事業」において、フォローアップ研修を実施する。
- ◆4県30校を対象に、自立した読書推進活動が継続されるよう、担い手を育てる。
- ◆学校図書室を8校にて新規開設する。
- ◆3年以内に開設した42校に図書を補充する。
- ◆図書室を巡回して、活用状況を確認、活性化の働きかけをおこなう。
- ◆「ラオス語指導者育成事業」の仕上げワークショップを実施し、マニュアルを完成する。

1. 本を読む環境の整備

■小学校における図書活用強化事業

＜事業概要＞

図書室がある学校で、授業に絵本など副読本を取り入れ、図書の活用と子どもの学ぶ力を高めることを目指す。

＜対象地域＞ 1 都 5 県	73校
ヴィエンチャン都	31校
ルアンナムター県	3校
ルアンパバン県	6校
サイヤブリ県	7校
ヴィエンチャン県	15校
ボリカムサイ県	11校

＜事業期間＞ 2009年9月～2010年9月

＜実績＞

今年度は、事業のまとめを実施しました。

セミナーや巡回指導の中で発掘した意欲のある教員15名と対象県の教育局読書推進担当教育指導官を集め、3日間のフォローアップ研修を実施。それぞれの学校で培った絵本の活用法や図書室運営に関するアイデアを交換し、図書の活用状況のよい学校や子どもセンターを訪問、また教員同士のネットワークを構築しました。

事業を実施した結果、教員は研修で得た図書の活用法を導入し、子どもが本に興味を示すきっかけ作りができるようになりました。さらに、巡回指導により各校の課題に対処することで、図書室活動の改善に繋がり、図書の活用率が高まりました。

（ご支援：日本NGO連携無償資金協力事業）



■読書推進運動の自立的運営の定着化事業

＜事業概要＞

「ラオスにおける読書推進運動の自主的運営のための拠点構築事業」のフォローアップ事業として、学校での図書活用方法の指導や、読書推進センターの活動安定化により、読書推進活動が継続的に実施される体制を整える。

＜対象地域＞ 4 県	30校
ボケオ県	5校
ヴィエンチャン県	11校
チャムパサック県	10校
セコン県	4校

＜事業期間＞ 2010年3月15日～2012年1月31日



＜実績＞

今年度は、下記活動を実施しました。

- ・各地域で県郡教育指導官対象のフォローアップ研修を実施。
- ・研修後、各校を2回巡回訪問指導。

2回目の訪問では、多くの学校で図書の活用状況が改善されており、中でも担任教師が各教室に本を持って行き貸し出しを行っている場合、図書の利用者数が飛躍的に伸びていました。訪問後、各県毎に教育指導官と講師チームで県内対象校のベスト校とワースト校を選定しました。

（ご支援：JICA草の根技術協力事業）

■学校図書室（ハックアーン）整備

＜事業概要＞

小中高校の空き教室などを利用して、学校図書室に必要な図書や本棚、読書用の机と椅子を整備し、開設時には書推進活動のノウハウを提供するセミナーを実施。

これまでに開設した図書室を訪問し、活性化のための働きかけをおこなう。

＜実績＞

*新規図書室開設

今期は計画通り8校を、以下の5県にて開設し、累計211校になりました。

対象地域	中学校
ヴィエンチャン県	2校
シェンクワン県	1校
サワンナケート県	2校
ボリカムサイ県	1校
ホアバン県	2校



*図書室活性化のための活動

これまでに開設した図書室23校を訪問し、活用状況を確認、各校が抱える課題に対し活性化のための働きかけをおこないました。同時に、図書室用の文具セットと図書約210冊を各校に配布しました。訪問した学校は以下の通りです。

対象地域	小学校	中学校
ルアンナムター県	1校	1校
ホアバン県	1校	1校
シェンクワン県		3校
サワンナケート県		5校
カムワン県		1校
ヴィエンチャン県		1校
ボリカムサイ県		1校
ヴィエンチャン都		8校

巡回により、長年連絡が途絶えていた学校とのつながりを再度構築することができました。

3年以内に開設した図書室42校への図書補充も

実施しました。この42校の多くは昨年度、巡回訪問を実施しており、今年度は郵送で届けました。

（ご支援：上野勉・洋子、大阪うつぼロータリークラブ、恵泉女学園中学高等学校、国際ボランティア会花組、高瀬稔彦、地球市民財団、ベルマーク教育助成財団・友愛援助運動参加校、南田中小学校、三井住友銀行ボランティア基金、武庫川女子大学附属中学高等学校・図書情報委員会、Ford Foundation:五十音順）

2. ラオス語指導者育成プロジェクト

＜事業概要＞

・教員養成校におけるラオス語（国語）教育教授法を確立し、全国の教員養成校でトレーナーを育成する。

・教授法のマニュアルを作成する

＜対象地域＞ 全国の教員養成校8校

＜事業期間＞ 2008年4月～2011年3月

＜実績＞

最終年度にあたる今年度は、講師陣が教員養成校3校にて、学生を対象に各2日間、模擬講義を実施しました。その後、再び教員養成校を訪問して教員による講義の模様を視察し、ラオス語教授法の技術の習得度を確認しました。

また、ラオス語教授法マニュアル『教本：ラオス語を楽しく教える方法～小学校教員課程向け～』を7,000部印刷し、全国の教員養成校に配布。マニュアルは、教員の実践例を中心に多様な手法を噛み砕いた言葉で説明しており、教員養成校の教員・学生が活用しやすい内容となりました。

3校のうち、研修で習得した新手法を授業で活用していたのは1校のみでした。教員養成校で長く教鞭をとっている教員にとって、今回の手法のような現行の枠組みを越える内容には関心は示すものの、活用はされにくく、新しい手法の必要性を感じてもらうことは予想以上に困難でした。今後は、マニュアルの活用状況をフォローし、セミナーを受講した卒業生の学校現場での実践状況や、教員養成校での授業の実施方法についてフォローアップを行うことが必要です。（ご支援：日本国際協力財団）



II 出版プロジェクト

<2010年度の計画>

- ◆当会でなければ出版できない「質の高い図書」を出版する。
- ◆子ども・成人向け図書、紙芝居を11作品出版する。
- ◆読書推進ニュースレターを2号発行する。
- ◆ラオスでは創作が困難な分野において、海外名作の出版を計画的に進める。
- ◆多様な少数民族向け図書の出版にも力を入れる。
- ◆新人作家や編集者の育成をおこなう。

<実績>

1. 出版

■図書・紙芝居

図書6作品、紙芝居1作品、計24,000部を出版しました。これらの作品以外に、3作品は編集をほぼ終えて、次年度に印刷をおこなう予定です。

図書の1作品は、少数民族カム族の民話を絵本にしたもの。紙芝居は日本の紙芝居コンクールに応募し特別賞を受賞したオリジナル作品で、多様な出版をすることができました。

しかし、再版の作品はスケジュール通りに出版出来るものの、新作については、編集作業や原稿

確認作業に時間がかかり、出版が遅れる傾向が続いています。

■読書推進ニュースレター

ラオスでの資金調達ができず、発行できませんでした。

2. 図書の販売

事務所書店での売上は減少しましたが、20箇所ほどの委託販売先やイベントでの売上は、前期に比べて24%増加しました。また、国際NGO教育セクター会合などにおいて、積極的に広報・宣伝をおこないました。

3. 出版作品

作品名（*は新版）	作者名	出版数	主な支援者	内容
絵本				
『ヌアンドームちゃん』 【表紙:下段右】	作)ウティン 絵)シッコー	1,000部	JICA草の根技術 協力事業	しっかり者の少女ヌアンドームちゃんが主人公。日常生活の様子が描かれる人気の作品です。
『穴に落ちたヒヨコ』 【表紙:上段右】	作)オートン 絵)ヴォンサワン	1,000部	JICA草の根技術 協力事業	穴に落ちてしまったヒヨコくんを、仲間たちが知恵を絞り、協力して助け出す物語。
『文字絵本 なんの どうぶつ?第1巻』 【表紙:中段右】	詩)ドゥアンドアン 絵)7名合作	3,000部 1,000部	学習院女子大学 JICA草の根技術 協力事業	ラオス文字を初めて習う子どものための絵本。身近な動物がリズムカルな詩によって描かれます。
『文字絵本 なんの どうぶつ?第2巻』 【表紙:中段左】	詩)ドゥアンドアン 絵)7名合作	3,000部 1,000部	学習院女子大学 JICA草の根技術 協力事業	ラオス文字を初めて習う子どものための絵本、第2弾。
『わらびをとり』* 【表紙:下段左】	作)スックサワン 絵)カンケオ	4,000部	キャノン株式会社	カム族の民話。孤児の少年は寝床にしていた岩に乗ってわらびの谷に向かいます。
紙芝居				
『青虫くん、葉っぱを 探して』* 【表紙:中段中】	作・絵)ソンペット	3,000部	沖電気工業 OKI愛の100円募金	箕面手づくり紙芝居コンクール特別賞受賞作品。青虫くんが好物の葉っぱを探して冒険します。
マニュアル				
『教本:ラオス語を楽しく 教える方法~小学校教員課 程向け~』*【表紙上段左】	ダラー、 ドゥアンドアン 教員養成校教員	7,000部	日本国際協力財団	小学校教員のためのラオス語教則本。小学生が楽しくラオス語を身につける教え方を記載。

Ⅲ 子どもセンター(CCC、CEC)・その他の活動

<2010年度の計画>

- ◆各センターで開催されるプログラム毎の支援に特化し、より有効な支援をおこなう。
- ◆活動が充分でないセンターに対し、運営能力向上のための研修を実施する。
- ◆スタッフによる支援先巡回を継続し、現状の把握と、問題解決のためのアドバイスをこなう。
- ◆活動活性化のために、中長期間、子どもの遊びの専門家などの人材派遣を進める。
- ◆事務所及び併設図書館の移転を契機とし、地域住民に広く開かれた図書館活動をおこなう。

<実績>

1. 子どもセンターの運営支援

■プログラム支援

各センターからの支援要請を検討し、11ヶ所のセンターに32のプログラムについて、講師料と教材費を支援しました。

名 称	支援 プログラム数
ヴィエンチャン都CEC	5
ヴィエンチャン都シーサタナーク郡CCC	3
ヴィエンチャン都ハクアーン34クラブ	2
ヴィエンチャン都ケオクーCEC	2
ボリカムサイ県CCC	3
ボリカムサイ県ボリカン郡CCC	2
ルアンパバン県CCC	3
サイヤブリー県CCC	3
サイヤブリー県ゲンタオ市CCC	3
サイヤブリー県ボーテン市CCC	3
サイヤブリー県パクライ市CCC	3

CCC=子ども文化センター、CEC=子ども教育開発センター

■支援プログラム

工作、エアロビクス、詩の朗読、お絵かき、舞踊、伝統楽器、劇、合唱、演劇など。4ヶ所のセンターでは、ラオスの古典文学「サンシンサイ」を基に詩の詠唱や、劇づくりの講座が盛んに展開されています。



■子どもセンターの活動状況

小規模センターでは、週あたり2～3のプログラムが実施され、150人程度が利用。大規模センター

では、週8～10プログラムが実施され、利用者は600人を越えています。

(ご支援:三井住友銀行ボランティア基金、アサヒワンビールクラブ、指定募金)

■子どもブックフェスティバル開催

2011年2月に、サワナケート県教育局と共催で、子どもブックフェスティバルを開催しました。2日間で小中校生825名、大人300名、合計1,125名が参加し、絵本や紙芝居の読み聞かせコンテストやお絵かきコンテストに参加したり、劇の発表・鑑賞を楽しみました。南部の同県での開催は初めての試みでしたが、予想以上の参加を得て、子ども達や地域住民に、図書の魅力を知ってもらうことができました。



■スタッフの研修

運営能力向上のためのスタッフ研修は、予算が確保できなかったこと、具体的内容を計画する時間が確保できなかったことにより、実施できませんでした。

■スタッフの巡回によるフォローアップ

担当スタッフが各センターを訪問し、活動状況の把握とアドバイスをおこなう計画だったが、読書推進事業の出張スケジュールが過密で訪問日程が組めず、訪問できませんでした。年々各センターへの支援金額が減るにつれ、各センターとの繋がりが薄くなり、活動状況や問題点・全体像を把握することが難しくなっており、対策が必要になっています。

2. 専門家派遣

■身体表現の専門家を短期派遣

長期に渡る子どもの遊びなどの専門家派遣はおこなえませんでした。ラオスと日本で活動するパフォーマーのあさぬまちずこ氏を前年度6月下旬より1ヶ月間派遣し、シーサタナークCCC、ボリカンCCC、ヴィエンチャンCECの3ヶ所にて、子ども向けの身体表現ワークショップを実施しました。身体表現に必要なテクニックをゲームの形で伝え、子ども自身の持つ能力を引き出し、参加者全員で作品を創作し、最終日には地域住民や父兄を招き、発表会をおこないました。

(ご支援：今井記念海外協力基金)



3. その他の活動

■事務所図書室活動

新事務所はヴィエンチャンの中心地から少し離れた場所で、庭が付属しており、子どもたちの屋外活動が可能となりました。併設された図書室では、読書の楽しみを引き出すためのイベントや仕掛けづくりを積極的におこなった結果、近隣に住み、通学する子どもたちが集まるようになりました。今後、地域の学校の読書推進を牽引する拠点になるには、親への働きかけが課題となっています。



図書室の概要は以下の通りです。

- ・蔵書数：約3,000冊
- ・図書館メンバー：1,060人

- ・来館者数：学期中 延べ400～500人／週
長期休み中 延べ100～200人／週
- ・実施イベント

- 8月 オープンハウス
- 12月 やべみつのり氏の工作教室（2回）
ICEP弦楽カルテットコンサート
- 4月 ピーマイ読書推進デイクャンプ
- 5月 子どもの日イベント

その他、各人の読書記録ノートの作成、図書の貸冊数で作る虹の階段、貸出実績上位者が参加できる遠足、スタディツアー、映画鑑賞会、劇・工作教室などの活動をおこないました。

■インターン・ボランティア

ラオス国立大学と連携し、ラオス人インターン・ボランティアの受け入れを数回おこないました。

■受託事業

下記、受託事業を実施しました。

- ・和光石原奨学金
教員養成校学生を対象とした奨学金支給
- ・小田原ユネスコ協会
特定小学校、施設への図書、教材等支援の協力
- ・PLAN
ボケオ県150校に配付する図書セットの制作
- ・IFAD

図書箱4箱および図書セットの制作

(ご支援：石原静子、小田原ユネスコ協会、PLAN、IFAD
(International Fund for Agricultural Development))

■読書推進会議で発表

バンコックで開かれたタイのNGO（TK Park - Thai Knowledge Park）主催の読書推進に関する会議で、スラビー事務局長がチャンタソン共同代表とともに、ラオスの教育事情や会の活動に関して発表し、雑誌やメディアで紹介されました。

■年間行事

- 7/25 岡田外務大臣ヴィエンチャンCEC訪問受入れ
- 9/10～13 ラオスのこどもスタディツアー受入れ
- 9/13 ALC図書館開館式・オープンハウス実施
- 10/24～26 ソップルアン寺にて絵本販売
- 12/20～27 ICEP弦楽カルテットラオスツアーに協力
- 12/22, 24 やべみつのり氏による工作教室
- 12/26 ヴィエンチャンCEC、ALC図書館でコンサート
- 2/11-12 サワナナケートにてブックフェスティバル共催
- 3/4 ヴィエンチャン都立図書館からの感謝状授与式
- 3/26 日本人会主催日本語スピーチコンテストにて図書販売
- 3/28 Joint Sector Review Meeting 出席
- 4/2 ALC 図書館ピーマイデイクャンプ開催
- 5/7 日本NGO主催震災復興支援フリーマーケット開催
- 5/8～/12 TK Park主催読書推進会議出席
- 5/12～5 Vientiane映画祭にて図書販売
- 5/16～17 タートルアン寺の行事にて図書販売
- 5/28 ALC図書館にて子どもの日イベント

組織運営

<2010年度の計画>

- ◆活動会員90名、サポーター160名を目指し、会員継続を強化する。
- ◆予算管理を徹底させ、コスト意識の徹底を図る。
- ◆自己資金調達量をより増加させる。
- ◆「物販」活動は、ボランティア、アルバイトによって効率よい展開を図る
- ◆ラオス事務所は、地方出張が可能な人材を増やし、事務局長が長期に渡り不在にならぬよう人材配置する。

<実績>

1. 全体運営

■会員

昨年度末の活動会員68名、サポーター142名（内団体7）とほぼ同じ会員数に留まりました。

活動会員 66名（内団体1件）

サポーター 145名（内団体9件）

■総会

9月18日、第8期2010年度通常総会を開催し、第8期事業報告、会計報告が承認されました。また第6期中期計画初年度にあたり、概要の説明がなされました。

参加者 活動会員46名（書面表決、委任状を含む）、協力者1名 計47名

■理事会

理事9名、監事2名により運営され、3ヶ月毎、年4回開催しました。会の中長期の方向性、ラオスでの出版図書の組み立て方などを論議しました。

■代表スタッフ会議

月1回、共同代表、事務局長、スタッフにより開催され、運営業務に関する意思決定を行いました。

■活動ミーティング

ボランティア、会員が集まる運営会議は、名称を活動ミーティングに変更し、5回開催しました。

参加者 46名



■中期計画の評価と策定

東京事務所スタッフ、代表が参加して、中期計画初年度の振り返りと年度計画のふり返しをおこないました。現地スタッフとの共有化を進めることが課題となっています。

2. 東京事務所

<実績>

■体制

昨年に引き続き、4名により運営されています。

常勤非専従事務局長 1名

常勤専従スタッフ 3名

■資金調達

数年来の懸案である自己資金の調達率を上げる努力は、一部成果を上げているものの、助成金やODAの減少を補うまでにはいならず、資金難は続いています。

一般寄附 予算比79%に留まる。件数は増加。

大口、複数の寄附が増加。

会費収入 計画の81%。

指定募金 昨年比161%増。件数は昨年並み。

助成金 全体で予算比81%と大幅に落ち込み。

物販 昨年度比113%と増加。

イベント収入

大規模イベントの休止により大幅に落ち込み。

■ボランティア・インターン

事務局業務の補助やイベント、また木場の展示販売スペースを活動拠点とする物販活動など、安定的に業務を担ってもらうことができました。テーマ別のボランティアチームの形成が、今後の課題となっています。

3. ラオス事務所

■体制

8月から新スタッフが1名加わり、常勤スタッフ9名により運営されています。

事務所代表 1名

常勤専従事務局長 1名

常勤専従スタッフ 6名

日本人駐在員 1名

パートタイマー 2名

地方出張に出られるスタッフが増え、事務局長が運営に携わる日数が増えました。

■資金調達

件数は減少しましたが、PLANからの特別受託事業が入ったことにより、前期比577%と大幅に増加しました。ブックフェスティバルの行事実施前などに寄付集めの活動を行うことができました。

国内事業

<2010年の計画>

- ◆事業企画案を事前に用意し、積極的に展開する。
- ◆紙メディアとしてのニュースレターをリニューアルし、メーリングリストを、発信の目的別に改編する。
- ◆地元大田区を中心に、学校での開発教育を展開する。
- ◆ボランティアの主導的な参加による運営を促す。

<実績>

1. 広報

■ニュースレター・年次報告

「ラオスのこども通信」50号より紙面をカラー化、ページ数等の改訂を行いました。今年度は3回、計5,800部発行し、年次報告は50号と同時に1,800部発刊しました。

発行号	発行月	発行部数	特 集
49号	2010年7月	1,800	「ラオスの中高生、文化、芸術を伝え、大活躍！」
50号	2010年12月	2,000	「こども図書館」新規オープン！」
年次報告	2010年12月	1,800	2009年度事業報告 2010年度事業計画 第5次中期計画
51号	2011年4月	2,000	「五嶋みどりさんのカルテットの演奏に聴き入る子どもたち」

■ホームページ

頻繁な更新ができるように改善され、スタッフブログなどでラオス情報の発信頻度は上がっています。

■メーリングリスト

メールによる情報発信を再編成しました。

名 称	開始月	対象	内 容
メーリングリスト	2011年3月	会員	会員サービスとしての情報発信
メールマガジン	2011年6月	一般	支援・参加のきっかけづくりとしての情報発信

2. イベント

■主催イベント

今年度は下記主催・共催イベントを実施しました（ゴシック字が主催イベント）。

7月 沖電気工業(株) 絵本貼りイベント

8月 秋元駐在員中間報告会

9月 スタディーツアー秋2010

10月 仙行寺「ラオスの美しい手織物と絵画・丁紹光作品展」

(株)リコー ランチイベント

12月 三菱商事(株) ランチイベント

ラボ教育センター ラオス語絵本プロジェクト

1月 展示会「ラオスの織物の世界」(平塚)

2月 講演会「ラオスの織物の世界と女性」

大田教育支援の会 絵本展「ハロー・ディア・エネミー！80作品展」

グループエム・ジャパン(株) 絵本貼りイベント

4月 「サバイディーピーマイパーティー2011」

5月 展示会「幻の布～ラオス手織りの美」(浅草)
リコーテクノシステムズ(株)「食べるボランティア」

(詳細は10ページをご覧ください)

この1年間、イベントボランティアとして活動してくれた方は延べ203名でした。



■勉強会

ボランティア主導の運営チームにより、勉強会が5回開催され、計184名が参加しました。

8月 「ラオスの田舎文化・子どもたちの感性」
講師 あさぬまちず氏

参加者 35名

10月 「ラオス語、タイ語、メコンの左岸と右岸のことば」

講師 矢野順子氏

参加者 43名

12月 「これだ！つという国際協力の見つけ方」

講師 新井綾香氏

参加者 39名

2月 「平和と寛容の国際絵本展」

講師 田島伸二氏 (大田教育支援の会共催)

参加者 約45名

6月 「山田さんが2時間で解き明かすラオスの謎?!」

講師 山田紀彦氏

参加者 58名



■開発教育

今年度は講師派遣 9 件、事務所訪問 1 件を実施しました。

	小学校	中学校	高校	その他
講師派遣	1	1	6	1
事務所訪問	1			

大田区にては、3校(中学校1、高校2)と連携を取ることができました。しかし学校と協働してプログラムを作り上げることは難しく、単発実施で終わりました。学校とのさらなる連携が必要と思われます。

(ご支援: 大田地域力応援基金助成事業)

3. ラオス語絵本プロジェクト

ラオス語翻訳貼付絵本の送付数は昨年度より24%増加しました。

プログラム申込数 35件

翻訳貼付冊数 計704冊

著作権確認はほぼ終了しました。今後は翻訳文のチェックと、絵本リストの見直しが課題となっています。

4. 書き損じハガキ収集キャンペーン

1年間で83件、計193,059円分のご支援をいただきましたが、昨年より金額で20%程減少しました。

書き損じハガキ 1,326枚

未使用ハガキ 2,236枚

未使用切手 26,139円分

5. スタディーツアーの開催

今年度は9月に実施しました。一般参加者6名と小規模でしたが、学校やCCCの現場で子どもたちと交流し、活動の意義を実感してくれました。

参加者には、その後も継続的に活動に関わっていただいています。

6. ネットワーク活動

国際協力NGOセンター(JANIC)正会員、教育協力NGOネットワーク会員を継続し、共同代表森透が教育協力NGOネットワーク副代表を務めました。ラオスにおいては、日本のNGOのネットワーク(JANM)に参加するとともに、秋元駐在員が国際NGOのネットワーク(INGO)教育セクターの共同議長を務めています。また学習院女子大学の授業に、講師として事務局長を派遣しています。

■主催・参加イベント(ゴシック体は主催イベント)

- 7/3 沖電気工業(株)絵本貼りイベントに参加
町田市立真光寺中学校 講師派遣
川崎市インターナショナルフェスティバルに参加
- 7/7~8 神奈川県立藤沢総合高等学校 講師派遣
- 8/7 秋元駐在員中間報告会
勉強会「ラオスの田舎文化・子どもたちの感性」
- 8/29 大田区池上祭り
- 9/10~14 スタディーツアー秋2010
- 9/18 2010年度通常総会
- 10/2~3 グローバルフェスタJAPAN2010に参加
- 10/7 アーユス仏教国際協力ネットワーク「祈り題目」に参加
- 10/9 勉強会「ラオス語、タイ語、メコンの左岸と右岸のこぼれ」
- 10/19~20 「ラオスの美しい手織物と絵画・丁紹光作品展」
- 10/22 JICS報告会、(株)リコー本社 ランチイベント
- 11/6~7 大田区OTAふれあいフェスタに参加
- 11/13 武蔵野市講演会「美しい伝統染織と女性の暮らし」
- 11/18~19 富士ゼロックス(株) 古本市に参加
- 11/19~22 千葉県立千葉高校 講師派遣
- 12/2 清林館高校を訪問
- 12/4 キヤノン(株) チャリティブックフェアに参加
- 12/5 東京プリンスホテルクリスマスチャリティーイベントに参加
- 12/9 戸田市立芦原小学校を訪問
三菱商事(株)ランチイベント
- 12/11 勉強会「これだ! という国際協力の見つけ方」
- 12/12 ラオ教育センターにてラオス語絵本プロジェクト開催
- 12/15 (株)日立製作所ランチイベントに参加
- 1/13~18 平塚「ラオスの織物展~ラオスの織物の世界」開催
- 1/20 横浜市師岡小学校 講師派遣
- 2/4 神奈川県立白山高等学校 講師派遣
- 2/8 公文国際学園にてラオス語絵本プロジェクト開催
- 2/13 チャンタソン講演会「ラオスの織物の世界と女性」
- 2/15 (株)リコー海老名事業所 ランチイベント
- 2/18~19 「平和と寛容の国際絵本展「ロー・ディア・エネミー! 80作品展」に参加
- 2/21 グループエム・ジャパン(株)にて絵本貼りイベント
- 3/3 名古屋西高等学校 講師派遣
- 4/23 「サバイディーピーマイパーティー2011」開催
- 5/18~24 浅草孔雀堂画廊にて「幻のブラウス手織りの美」開催
- 5/25 リコーテクノシステムズ(株)「食べるボランティア」
- 6/11 勉強会「山田さんが2時間で解き明かすラオスの謎?!」

第9期 2010年度 会計説明

収入は前期を下回り、前期の88%、予算額の81%の収入に留まりました。会員数が減少したことにより会費収入は10%ほど減少しました。一般寄附は、認定NPOになった成果とするか判断が難しいところですが、大口、複数回のご寄付が増加しました。また、寄附件数も23%ほど増加しましたが、金額では昨年比93%に留まりました。指定募金は件数では増加していないものの、個人の方からの支援で昨年比161%増となりました。

企業、団体、財団、政府系助成金によるプロジェクト援助は、民間財団、政府系助成金によるものが大幅に落ち込み、全体で昨年比81%となりました。助成金の申請を出しても、これまでと異なり競合団体が多く、通らないケースが増えてきています。助成先のミッションに合わせたアピールがより必要となっています。

ラオスでの資金調達には、大量の図書の購入がありました。力を入れつつある物販は、カレンダーや織物展での売上増で、昨年度比113%となりました。これまで夏の恒例イベントであった麻布十番国際納涼祭が中止となったことにより、収益イベント収入は大幅に落ち込みました。

数年来の懸案である自己資金の調達率を上げる努力は、一部成果を上げているものの、助成金やODAの減少を補うまでにはいたらず、資金難は続いています。とりわけ本年度も自己資金投入が必要な活動が続き、当期収支差額は-177万円となり、昨年に続き大幅な赤字決算となりました。繰越金のうち、約205万円はプロジェクトが指定され、期を超えての実施が予定されています。

矢崎監事、脇田監事から、以下のコメントがありました。

- ・予算と比較して大幅に収入が減少している。継続して事業を実施するために、安定的な資金調達の方法を検討する必要がある。
- ・繰越金のうち、プロジェクト実施分を除くと、実質的に自由に用途を決められる額は764万円しかない。事務経費だけでも2010年度で896万円かかっている。事業の安定的実施のためには、繰越金が十分にあることが大事である。
- ・NPO法人会計を導入するなどして、アカウンタビリティをより強化していただくことを期待する。
- ・今後、ラオスの物価は高騰し、固定費が増えていくことが想定される。助成金を確保する企画のほか、自主財源である寄付金について、寄付者が寄付控除できる”認定”を積極的に活用したい。
- ・予算と決算の乖離は20%以内に収まるよう努力する必要がある。

正味財産増減計算書		2010年7月1日から2011年6月30日まで	
科 目		金 額	
I 増加の部			
1 資産増加額			
期末商品棚卸高	6,006,898		
当期収支差額			6,006,898
増加額合計			
II 減少の部			
1 資産減少額			
期首商品棚卸高	7,035,960		
当期収支差額	1,772,059		
減少額合計			8,808,019
当期正味財産増加額			-2,801,121
前期繰越正味財産額			18,505,697
期末正味財産合計額			15,704,576

貸借対照表		2011年6月30日現在	
科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	297,884		
預金	6,902,639		
外貨	2,108,257		
図書	5,918,437		
商品	88,461		
貯蔵品	326,813		
仮払金	115,185		
流動資産合計		15,757,676	
資産合計			15,757,676
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	53,100		
流動負債合計		53,100	
負債合計			53,100
III 正味財産の部			
正味財産			15,704,576
(うち当期正味財産減少額)			(2,801,121)
負債及び正味財産合計			15,757,676

監査報告書

2011年8月3日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

代表 桑 透 君
チャントソン インタヴォン 殿

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監事 矢崎 芳生 氏
監事 脇田 康司 氏

私は、特定非営利活動法人 ラオスのこども 第9期2010年7月1日から2011年6月30日までの会計年度について、事業報告と会計報告の監査を行った結果、適正であることを認めます。

以上

第9期2010年度 会計報告 2010年7月1日～2011年6月30日 第10期2011年度 収支予算 2011年7月1日～2012年6月30日

I 収入の部		(単位:円)			
科目		2009年度決算	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算
会費・寄付金	小計	6,347,672	8,310,000	6,957,000	7,720,000
会費		1,138,000	1,250,000	1,020,000	1,175,000
一般寄付		3,627,972	4,200,000	3,468,341	3,800,000
指定基金		1,581,700	2,860,000	2,468,659	2,745,000
プロジェクト援助金	小計	19,946,699	20,100,000	16,363,821	22,623,759
民間一般助成金		6,184,797	7,300,000	3,867,839	6,000,000
政府系補助金・助成金		13,062,388	11,300,000	8,458,986	15,823,759
現地受取補助金・助成金		699,514	1,500,000	4,036,996	800,000
その他	小計	6,176,155	6,800,000	5,333,644	8,550,000
販売収入		4,666,974	5,100,000	3,895,900	4,900,000
イベント収入		1,335,099	1,500,000	1,404,658	3,450,000
雑収入		174,082	200,000	33,086	200,000
当期収入合計		32,470,526	35,210,000	28,654,465	38,893,759
前期繰越金		14,412,185	11,469,737	11,469,737	9,697,678
□ 収入合計		46,882,711	46,679,737	40,124,202	48,591,437
II 支出の部					
科目		2009年度決算	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算
事業費	小計	28,277,057	25,760,815	21,457,791	29,017,425
読書推進事業費		15,739,683	17,946,925	14,119,390	18,930,790
図書活用強化事業		8,119,528	1,280,790	1,184,607	9,350,796
自立的運営の定着化事業		795,754	8,040,990	7,233,771	5,012,863
学校図書室・教員養成校		3,469,192	6,712,415	3,303,977	1,979,200
統括管理		3,355,209	1,912,730	2,397,035	2,587,931
出版事業費		3,615,144	2,554,550	812,692	2,976,870
図書紙芝居出版		2,685,131	2,460,500	738,608	2,865,000
救急法ハンドブック		829,418			
統括管理		100,595	94,050	74,084	111,870
子ども文化センター支援事業費		1,974,383	1,712,090	1,434,230	584,885
各センター運営支援		1,088,467	855,000	846,863	400,000
自立支援		515,584	570,000	329,181	50,000
統括管理		370,332	287,090	258,186	134,885
特別実施事業費		6,947,847	3,547,250	5,091,479	6,524,880
その他現地事業費		1,407,690	907,250	2,250,495	1,022,400
国内事業費		5,540,157	2,640,000	2,840,984	5,502,480
管理費	小計	7,135,917	8,651,655	8,968,733	8,787,310
東京事務所経費		6,253,690	7,687,500	7,967,721	7,771,622
家賃・水道光熱費		540,000	585,000	585,000	540,000
通信費・運搬費		228,723	180,000	251,705	220,000
事務費・記録費		159,199	130,000	164,489	160,000
広報費		681,918	600,000	700,266	700,000
人件費・交通費		4,040,721	5,677,500	5,760,438	5,616,622
備品消耗品費		7,970	20,000		
諸会費・会議費		95,000	75,000	17,000	75,000
コピー機リース料・法人税		395,654	170,000	212,073	210,000
雑費		104,505	250,000	276,750	250,000
ラオス事務所経費		882,227	964,155	1,001,012	1,015,688
家賃・水道光熱費		156,375	228,000	187,107	259,900
通信費・広報費		21,432	37,050	18,676	36,400
事務費・記録費		64,457	51,300	22,995	41,000
人件費・交通費		369,310	322,905	378,524	420,088
備品消耗品費		39,500	39,900	20,747	20,500
諸会費・雑費		231,153	285,000	372,963	237,800
予備費			150,000		150,000
□ 当期支出合計		35,412,974	34,562,470	30,426,524	37,954,735
□ 当期収支差額		-2,942,448	647,530	-1,772,059	939,024
次期繰越収支差額		11,469,737	12,117,267	9,697,678	10,636,702

第5次中期計画の概要 2010年7月1日～2013年6月30日

＜ラオスのこどもの使命＞

子どもたちが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に選択できる権利を実行できるようになること



このために、以下の視点から調整・推進をおこなう

◆個々の子どもの持つ能力を引き出す働きかけにより →

自己主体となるための識字能力の獲得支援
自らを表現できる能力の獲得支援

◆社会の子どもを大切にする活動の担い手との協働により

多様な価値観を許容する社会の実現
子どもたちの居場所の形成支援

＜基本方針＞

- ◆子どもだけでなく地域を巻き込んだ読書推進活動を展開する。
- ◆出版については「量より質」を重視し、会の主体を大切にしたい出版活動をおこなう。
- ◆読書推進活動を担う人材を、事務所内外で育成する。
- ◆ラオス事務所が長期的にはカウンターパートとして自立できるように準備をおこなう。

I. 年度計画の全体方針

1年間、自己資金調達のために努力してきましたが、成果が出るまでに至らず、3期に渡り収支が赤字となりました。今年度は、財政の立て直しを組織の第一の重点項目とします。

第5次中期計画の基本方針にのっとり、現在進行している諸事業や、新規分野を含め活動の調査と評価、検討をおこないます。特に下記2点を重点項目とします。

＜子どもだけでなく地域を巻き込んだ読書推進活動を展開する＞

＜ラオス事務所が長期的にはカウンターパートとして自立できるように準備をおこなう＞

2012年が活動開始から30周年目となることから、東京とラオスにおいて記念事業をおこないます。

III. 組織運営

■ 運営

- ・財政難の克服を最重点事項とする。
- ・運営の効率化と適正化を図るため、事業の取捨選択をおこなう。
- ・賛同、協力の呼び掛けを強化するため、団体のミッションの表現を工夫する。

■ 会員

- ・活動理念を共有し運営を支える支援者を増やす。

■ 活動ミーティング・勉強会

- ・活動する人々、関心を持つ人々とのネットワークを強める。

■ 計画評価・推進

- ・活動の進行状況確認、方向性の検討をラオス事務所とともにすすめる、活動評価の共有化を図る。

■ ネットワーク

- ・他団体と連携をすすめ、ネットワーク加盟のメリットを積極的に生かす。

【東京事務所】

■ 体制・運営

- ・スタッフの主体性の強化、業務・判断の迅速化を重点目標とする。
- ・業務分担の適正化で、業務の質と効率化を図る。

■ 資金調達

- ・支援プログラムを多様化し、協力への呼び掛けを強化する。
- ・寄附メニューの表現を改める。
- ・ラオスで活動する企業、団体、機関への働き掛けを強化する。
- ・企業等との連携ガイドラインを作成する。
- ・認定NPOへの寄付のメリットを積極的にPRする。

■ インターン・ボランティア

- ・インターン、ボランティアの業務、役割を明確化し受入体制を改善する。

【ラオス事務所】

■ 体制・運営

- ・ラオス事務所の中長期的な自立を意識し、体制の強化を重点項目とする。
- ・スタッフ間の情報共有化、運営の参加を強める。

■ 資金調達

- ・理解者を進め、ラオスでの資金調達率を上げる。

■ インターン・ボランティア

- ・ラオス人学生ボランティア、インターンが定着するよう、育成する。

プロジェクト運営

I. ラオスでの事業

■出版プロジェクト

- ・「質の高い本—子どもの心に火をともし本」の出版をめさし、読み手の目線をポイントとした多様な本を計画的に出版する。

■読書推進活動

- ・新たな学校図書室の開設と並行し、過去に図書を配布した学校のフォローアップに注力する。
- ・学校を巡回訪問し、教員と共に問題の解決にあたる。また、地域住民の運営への参加を促す活動をおこなう。



■小中学校における図書活用強化事業

チャムパサック県・サワンナケート県カムワン県 3 県の図書室がある学校34校を対象とし、各校をまわり、活動状況を調査する。

図書活用セミナーを開催する。

■自立的運営の定着化事業

事業終了年度にあたり、ボーケオ県、ヴィエンチャン県、チャムパサック県、セコン県の4県30校を対象とし、評価フォローアップを実施する。

・学校図書室（ハクアーン）新規開設

小中高校9校にて学校図書室を新規に開設する。

・学校図書室（ハクアーン）フォローアップ

過去に開設した図書室36校に図書を補充し、できる限り巡回フォローアップを行う。

■子どもセンター

- ・支援するセンターの数を絞り、会スタッフが年に2回程度支援先を巡回し、活動状況と子どもを取り巻く環境の把握と、問題点解決のためのアドバイスをおこなう。
- ・各センターからの申請内容を検討し、プログラムを決め、講師料と教材費の支援をする
- ・郡に設置されている小規模の子どもセンターを中心に支援する。
- ・活動の状況把握をする中で、活動活性化のための専門家派遣などのニーズを探るとともに、今後の方針を明確にする。

■イベント・対外活動

- ・事務所に開設した 図書館にて、蔵書の充実、活動の充実を図り、読書推進活動のモデル図書館として発展させる。

■広報

- ・ラオスでの政府、団体に対し、会の認知度を上げる働きかけを強化する。

■イベント

- ・教育に関わる団体と協力しつつ、引き続き実施する。
- ・30周年記念イベントを開催する。

II. 国内事業

■広報

- ・ホームページの情報を充実させつつ、改訂の準備を進める。

■イベント

- ・ラオス理解、活動理解の促進となる主催イベントを中心とした参加に絞る。
- ・地元大田区との連携をすすめて、学校と継続的な連携がとれるような仕組みをつくる。
- ・企業とのイベントにおいても、開発教育の視点が生きるような構成とする。

■ラオス語絵本プロジェクト

- ・ラオス語訳文の内容チェックを進める。
- ・図書リストの再検討、更新をおこなう。



■書き損じハガキ収集

- ・開発教育と一体化するなど収集力を高める。

■スタディツアー

- ・活動への理解を進めるため、積極的に取り組む。

■特別活動

- ・東日本大震災被災地支援活動を、会として個性を生かせる分野において進める。
- ・30周年記念事業として、ラオス語図書の日本での日本語翻訳出版をおこなう。